

# GMO INTERNET GROUP

## 2023年12月期 第3四半期決算説明会 質疑応答の要約

2023年11月14日に開催した決算説明会において、参加者の皆さまから頂いた質問をまとめたものです。GMOインターネットグループCFOの安田、副社長の伊藤、グループ執行役員の稲垣、GMOフィナンシャルホールディングス代表執行役社長の石村、GMOアドパートナーズ代表取締役の橋口より回答させていただきました。なお、一部IR部門にて回答を補足させていただいております。

### ●連結

【Q1】 単2Qでは特殊要因のマイナス影響が約20億という話があったが、単3Qはどうだったのか？また今後の見通しについても教えてほしい

【A1】 単3Qでは不良債権の回収が進み、FREENANCE事業、タイの証券事業で合わせて6億強の戻し入れ益がありました。FREENANCE事業については、ビジネス戦略の再構築を実行したため、引当金の追加計上は見込んでいません。タイの証券事業については、顧客からの定期的な返済や担保の売却によって回収を進めています。さらに、今回のような事件もあったことからリスクを減らすため、信用取引残高の圧縮をあわせて進めています。

【Q2】 3Qまでの連結業績の評価を改めて聞かせてほしい。

【A2】 広告・メディア事業がやや苦戦しているものの、特殊要因を除けば連結業績は概ね順調に進捗しています。

【Q3】 15期連続増収増益に向け、現時点での考えを改めて聞かせて欲しい。

【A3】 昨年インキュベーション事業で100億超の利益計上があったことから、今期はハードルが低くない中で15期連続増益に向けて取り組んでいる状況です。3Qで貸倒れ引当金の戻し入れ益もあったが、引き続き、岩盤ストック収益の積み上げ、金融事業の収益性改善を主軸に増収増益の達成を目指します。

### ●インフラ事業

【Q4】 イエラエのPL影響はどうなっているか？

【A4】 単3Qのイエラエ単体では売上7億強、利益については1億強の損失となりました。なお、連結ではこの他のれんの償却費用2億が発生しています。ただし、年度で単体で黒字化の期初見通しには変わりはありません。

【Q5】 EC支援事業の競合と思われるBASE社がプラン変更を発表したが、どう受け止めているか？

【A5】 BASE社が機能面、価格面双方を上げられる中で、退会される店舗は出てくると思います。当社グループはメイクショップ、カラーミーショップのマルチブランド戦略を採っており、機能面やプランのバリエーションでも優位性があると考えています。最終的には機能、費用対効果がポイントになると考えており、機能面を淡々と強化していくことで対応してまいります。

# GMO INTERNET GROUP

【Q6】 P.81のインフラの利益構成について、決済以外の例えばドメイン事業、クラウドホスティング事業のQ3以降の方向感について教えてほしい。

【A6】 ドメイン、クラウドホスティングは契約件数の積み上がりが数百万件になっているため、四半期単位で大きな変動は見込んでいません。これまでどおり淡々と積み上がっていくイメージです。  
(伊藤)

## ●広告・メディア

【Q7】 業績に減速感が見られるがその背景及び4Q以降に向けての見通しを教えてほしい。

【A7】 今期は自社のアドネットワーク広告がクッキー規制を見据え弱含みで推移しているところをメディア、広告代理で補うという構造となっていました。しかし、下半期に入り広告需要に関する動向の変化を受け、広告代理のマイナスが一時的に大きくなっている状況です。  
(橋口)

大きく内部体制が崩れているというわけではないが、単4Qで大きくボトムアウトするところまでは見えていない。下期に獲得した新規顧客の取引増、グループ内再編などで再成長を目指していきます。

## ●金融

【Q8】 昨年4Q以降、収益性重視の運用を続けているがキャンペーン施策への考え方含め、4Q以降の見通しを教えてほしい。

【A8】 ご指摘のとおりFX、CFDについては昨年4Q以降、収益性を安定させる施策を進めてきており成果が出ています。マーケット環境を見ても金利動向などボラティリティが高まりそうなイベントもあることから、業績の下振れリスクは低いのではないかと考えています。  
(石村)

キャンペーンについては、FX市場が活性化しているタイミングであることから、新規顧客獲得、休眠顧客の活性化など収益の状況次第ではあるものの進めていきたいと考えています。

## ●暗号資産

【Q9】 今期に入り、毎四半期じわじわ赤字幅が拡大している状況だが4Q以降の見通しを教えてほしい。

【A9】 交換事業については、足元10月11月についてはマーケット環境が上向いてきています。取引高が増えてくれば収益もしっかりつくれる体制はできているため、月次開示で取引高の状況を見ていただきたい。  
(石村)

【Q10】 マイニングの売上がQoQで減少したが、HRの状況はどうなっているのか？今後の見通しは？

【A10】 現地マイニングセンターのオペレーション上の問題により、稼働率が低調に推移し、HRは100PH/s台まで低下しています。ただし、固定費は元々小さく、コスト抑制もあり赤字幅は2Qと同水準となっています。今後も低稼働な状況が見込まれるものの、業績影響は軽微と見込んでいます。  
(伊藤)

# GMO INTERNET GROUP

## ●その他

【Q11】 持分法適用会社であるGMOあおぞらネット銀行の持ち分を増やしたが、連結業績への影響、黒字化への考え方を教えてほしい。

【A11】 種類株式の取得により出資割当が増加しました。グループ会社であるGMO-FHからの出資もあるため、23Q3より約41%を「持分法投資損益」として経常利益段階で取り込むこととなります。  
(安田)

25年3月期の黒字転換を目指し、ベースビジネスを抜本的に強化したうえでさらなる収益力を向上させるべく新中期経営計画の着実な実行を支援しています。足元では、GMO-IGから役員を派遣し、Webマーケティングの強化に取り組んでいます。

【Q12】 AI関連取り組みが進んでいるが、AI関連事業の業績貢献、マネタイズの時期など現時点の考え方を聞かせて欲しい。

【A12】 AI関連への取り組みについては熱量、温度感高く全社的に取り組んでいます。一方で、現時点でマネタイズのタイミングなど具体的に見えているものは少ないというのが正直なところです。  
(安田)

以上